

# 平成 23 年度大牟田市自然環境調査報告書

## 櫟野地区・上内地区 調査



里地里山の風景

平成 24 年 3 月  
大牟田市自然環境調査研究会  
大 牟 田 市

## はじめに

本市では、平成14年度より「大牟田市環境基本計画」を施行し、自然環境の保全を重要な課題の一つと位置づけ、快適環境都市を目指して諸事業を推進しています。自然環境調査は、本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために行っています。

平成23年度は、櫛野地区・上内地区の調査を実施しましたので報告します。

## 目 次

1 調査目的	1
2 調査日時	1
3 調査地域	1
4 調査対象分野と担当者名	2
5 調査方法	2
6 調査結果	2
(1) 植物	2
(2) ほ乳類	20
(3) 鳥類	20
(4) 爬虫類・両生類	22
(5) 昆虫類・クモ類	23
(6) 陸産貝類	31
(7) その他	31
7 まとめ	32

## 1 調査目的

本調査は、大牟田市環境基本計画（平成14年3月版）のグリーンセンサス（定期的な自然環境調査）として、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため、実施するもの。

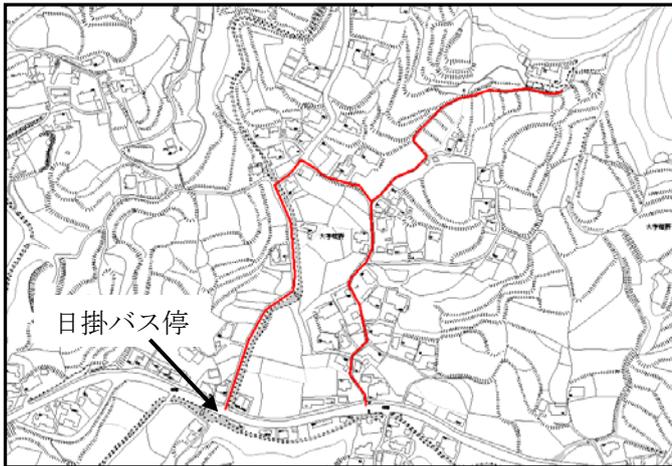
## 2 調査日時

以下の日程で2回実施した。

- ①第1回調査：平成23年7月16日（土） 9時30分～15時 天候：晴れ
- ②第2回調査：平成23年11月3日（木） 9時～16時 天候：晴れ

## 3 調査地域

この地域は、平成12～13年、環境基本計画の基礎資料として実施された自然環境調査以降、調査が行われていない。このようなことから今回、本市の里地里山の現状を把握するため南東部に位置する櫟野地区（日掛バス停～金泉寺）までの範囲と、上内の柵地区（柵公民館周辺）と、（山口橋より東側の荒地地）の調査を行った。



櫟野地区（日掛バス停～金泉寺）



上内の柵地区（柵公民館東側）、（山口橋東側）

### ○里地里山とは

里地里山とは、原生的な自然と都市との間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域です。農林業などに伴うさまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきました。

里地里山は、特有の生物の生息・生育環境として、また、食料や木材など自然資源の供給、良好な景観、文化の伝承の観点からも重要な地域です。

しかし、里地里山の多くは人口の減少や高齢化の進行、産業構造の変化により、里山林や野草地などの利用を通じた自然資源の循環が少なくなることで、大きな環境変化を受け、里地里山における生物多様性は、質と量の両面から劣化が懸念されています。

（環境省 自然環境局：里地里山の保全・活用より抜粋）

#### 4 調査対象分野と担当者

調査対象分野は、植物、ほ乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類・クモ類及び陸産貝類とし、大牟田市自然環境調査研究会が調査を実施した。

自然環境調査 研究会委員	分野	委員名	分野	委員名
	総括・陸産貝類	嶺井 久勝	鳥類	永江 和彦
	植物	中島 健晴	爬虫類・両生類	松永 公幸
	ほ乳類	尾形 健二	昆虫類・クモ類	中嶋 秀利

・調査協力：大牟田生物愛好会会長 嶋田 雅俊（第2回調査）

#### 5 調査方法

分野	調査方法
植物	あらかじめ設定した調査ルートにそって現地調査を行い、確認された種を記録した。 * ほ乳類に関しては、このほか、足跡や食痕・糞などの生活痕により確認した。 * 鳥類に関しては、このほか、鳴き声により確認した。
爬虫類・両生類	
昆虫類・クモ類	
陸産貝類	
ほ乳類	
鳥類	

希少野生生物及び特定外来生物については、下記参照。

絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種。
絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種。
準絶滅危惧	存在基盤が脆弱（弱い）な種で、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したものの。

#### 6 調査結果

##### (1) 植物

植物では、第1回調査の櫟野地区の調査で、シダ植物 15 科 43 種、種子植物 84 科 299 種、計 99 科 342 種、上内の柗地区（柗公民館東側）の調査で、シダ植物 14 科 43 種、種子植物 82 科 283 種、計 96 科 326 種を確認した。第1回の調査結果から、合計シダ植物 15 科 45 種、種子植物 93 科 357 種、計 108 科 402 種を確認した。

第2回調査の櫟野地区の調査で、シダ植物 15 科 45 種、種子植物 84 科 333 種、計 99 科 378 種、上内の柗地区（柗公民館東側）の調査で、シダ植物 16 科 51 種、種子植物 82 科 304 種、計 98 科 355 種を確認した。また、第2回調査では、柗地区の山口橋東側の調査も行い、シダ植物 16 科 39 種、種子植物 58 科 166 種、計 74 科 205 種を確認した。第2回の調査結果から、合計シダ植物 17 科 63 種、種子植物 94 科 410 種、計 111 科 473 種を確認した。

第1回及び第2回調査結果から、合計シダ植物 17 科 64 種、種子植物 97 科 448 種、計 114 科 512 種を確認した。

希少野生生物は、櫛野地区で環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定され、福岡県の絶滅危惧ⅠB類に指定されているミズオオバコと、福岡県の絶滅危惧ⅠA類に指定されているトラノオスズカケを確認した。上内の栂地区では、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイヌカタヒバを確認した。また、櫛野地区と上内の栂地区で特定外来生物に指定されているオオキンケイギクを確認した。

植物一覧表

分類群			第1回調査				合計		
			櫛野地区		上内・栂地区(公民館東側)				
			科	種	科	種	科	種	
シダ植物			15	43	14	43	15	45	
種子植物	裸子植物		4	5	5	6	5	6	
	被子植物	双子葉類	離弁花類	47	147	44	143	50	171
		合弁花類	18	68	20	70	21	89	
	単子葉類		15	79	13	64	17	91	
合計			99	342	96	326	108	402	

分類群			第2回調査						合計		
			櫛野地区		上内・栂地区(公民館東側)		上内・栂地区(山口橋東側)				
			科	種	科	種	科	種	科	種	
シダ植物			15	45	16	51	16	39	17	63	
種子植物	裸子植物		4	5	5	6	2	2	5	6	
	被子植物	双子葉類	離弁花類	48	160	46	149	32	84	52	197
		合弁花類	18	78	19	79	16	45	21	101	
	単子葉類		14	90	12	70	8	35	16	106	
合計			99	378	98	355	74	205	111	473	

分類群			第1回調査		第2回調査		合計		
			科	種	科	種	科	種	
シダ植物			15	45	17	63	17	64	
種子植物	裸子植物		5	6	5	6	5	6	
	被子植物	双子葉類	離弁花類	50	171	52	197	54	213
		合弁花類	21	89	21	101	21	108	
	単子葉類		17	91	16	106	17	121	
合計			108	402	111	473	114	512	

希少野生生物及び特定外来生物リスト

和名	種類
ミズオオバコ 	<b>【環境省絶滅危惧Ⅱ類】【福岡県絶滅危惧ⅠB類】</b> 山間部のため池など限られた水域に生息している。沈水生の一年草。葉は質が薄く、赤みを帯びた薄緑色。水深によりサイズと葉の形は大きく変化する。花期は8～10月。花は白～桃色。両性花。まれに単性花もある。 (出典:福岡県レッドデータブック 2001)
イヌカタヒバ 	<b>【環境省絶滅危惧Ⅱ類】</b> 林下の岩上に生じる常緑性シダ。地下茎は匍匐し、葉をまばらにつけ、ところどころに根を生じる。先端部がしたいに地上茎となり、3～4回分岐して葉身状となる。葉柄に相当する部分は葉身状の部分とほぼ同長、葉身状の部分は広卵状三角形で鋭頭、長さ12～25cm、幅5～10cm。孢子嚢穂は小枝に1個頂生し、長さ5～15mm。(出典:環境省レッドデータブック) ※山野草として流通したものが逸出したものであり自生のものではない。
トラノオズカケ 	<b>【福岡県絶滅危惧ⅠA類】</b> 低地の林下や林縁に自生。自生地が開発されることが減少の要因となる。また林下、林縁の道路沿いに自生しているため、草刈りの際刈り取られる恐れがある。茎の長さ70～150cmの地面を這うつる性の多年草。葉は互生し、卵形または長円楕状卵形。両面無毛で、裏面は紫色を帯びる。花期は8～9月。花は紅紫色で、葉腋に短い円錐状の花序をつける。 (出典:福岡県レッドデータブック 2001)
オオキンケイギク 	<b>【特定外来生物】</b> キク科の多年生草本で、高さは0.3～0.7m程度。温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。開花期は5～7月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。(出典:環境省特定外来生物等一覧)

植物合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		櫛野地区	栂地区 (栂公民館東側)	櫛野地区	栂地区 (栂公民館東側)	栂地区 (山口橋東側)	
シダ植物 第1回(15科45種) 第2回(17科63種) 合計(17科64種)							
ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ					○	
イワヒバ科	イヌカタヒバ				○		逸【環境省絶滅危惧Ⅱ類】
	コンテリクヤマゴケ	○		○		○	外
	タチクヤマゴケ			○	○		
トクサ科	スギナ	○	○	○	○	○	
	トクサ		○		○		
ハナヤスリ科	オオハナワラビ					○	
	フユノハナワラビ				○	○	

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		樺野地区	柗地区 (柗公民館東側)	樺野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	
ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○	○	○	○	
ウラジロ科	ウラジロ	○	○	○	○	○	
	コシダ	○	○	○	○	○	
フサンダ科	カニクサ	○	○	○	○	○	
コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ					○	
	フモトシダ	○	○	○	○	○	
	ワラビ	○	○	○	○		
ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	○	○	○	
ホウライシダ科	イワガネゼンマイ	○	○	○	○		
	イワガネソウ				○	○	
	タチシノブ	○	○	○	○	○	
	ホウライシダ		○				
イノモトソウ科	アマクサシダ	○	○	○	○	○	
	イノモトソウ	○	○	○	○	○	
	オオバノハチジョウシダ					○	
チャセンシダ科	トラノオシダ	○	○	○	○		
シシガシラ科	オオカグマ	○	○	○	○	○	
	コモチシダ	○		○			
オシダ科	イノデ	○	○	○	○	○	
	イノデモドキ	○	○	○	○	○	
	エンシュウカナワラビ	○	○	○	○		
	オオイタチシダ	○	○	○	○	○	
	オオカナワラビ	○	○	○	○	○	
	オクマワラビ	○	○	○	○		
	オニカナワラビ	○	○	○	○	○	
	オニヤブソテツ	○	○	○	○		
	クマワラビ	○	○	○	○		
	サイゴクイノデ					○	
	ツクシイワヘゴ	○	○	○	○		
	テリハヤブソテツ					○	
	ナガバノイタチシダ	○	○	○	○	○	
	ハカタシダ	○	○	○	○	○	
	ベニシダ	○	○	○	○	○	
	マルバベニシダ					○	
	ヤブソテツ	○	○	○	○		
	ヤマイタチシダ	○	○	○	○	○	

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	桃地区 (桃公民館東側)	襟野地区	桃地区 (桃公民館東側)	桃地区 (山口橋東側)	
(オシダ科)	ヤマヤブソテツ	○	○	○	○		
ヒメシダ科	イヌケホシダ				○		
	ゲジゲジシダ	○	○	○	○	○	
	コハシゴシダ	○	○	○	○	○	
	ハシゴシダ					○	
	ヒメワラビ	○	○	○	○		
	ホシダ	○	○	○	○		
	ミジシダ	○	○	○	○	○	
	ミドリヒメワラビ				○		
	ヤワラシダ	○	○	○	○		
	イワデンタ科	イヌワラビ	○	○	○	○	
ウラボシノコギリシダ						○	
シケシダ				○	○		
シケチシダ		○	○	○	○	○	
シロヤマシダ					○	○	
ノコギリシダ					○		
ヘラシダ						○	
ウラボシ科	ノキシノブ	○	○	○	○		
	マメヅタ	○	○	○	○		
	ミツデウラボシ	○	○	○	○	○	
種子植物 第1回(93科 357種) 第2回(94科 410種) 合計(97科 448種)							
裸子植物 第1回(5科 6種) 第2回(5科 6種) 合計(5科 6種)							
マキ科	イヌマキ	○	○	○	○		木・逸
マツ科	アカマツ	○	○	○	○		木
	クロマツ	○	○	○	○		木
スギ科	スギ	○	○	○	○	○	木・逸
ヒノキ科	ヒノキ	○	○	○	○	○	木・逸
イヌガヤ科	イヌガヤ		○		○		木
被子植物 第1回(88科 351種) 第2回(89科 404種) 合計(92科 442種)							
(1) 双子葉類 第1回(71科 260種) 第2回(73科 298種) 合計(75科 321種)							
① 離弁花類 第1回(50科 171種) 第2回(52科 197種) 合計(54科 213種)							
ヤマモモ科	ヤマモモ	○	○	○	○	○	木
ブナ科	アラカシ	○	○	○	○	○	木
	クヌギ	○	○	○	○	○	木
	クリ	○	○	○	○		木

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	柗地区 (柗公民館東側)	襟野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	
(ブナ科)	コナラ	○	○	○	○	○	木
	シロブカガシ	○	○	○	○	○	木
	スダジイ	○	○	○	○	○	木
	ツブラジイ	○	○	○	○	○	木
ニレ科	アキニレ	○	○	○	○		木
	エノキ	○	○	○	○	○	木
	ケヤキ	○		○			木
	ムクノキ	○	○	○	○	○	木
クワ科	イタビカズラ		○		○		木
	イヌビワ	○	○	○	○	○	木
	オオイタビ			○			木
	カナムグラ	○	○	○	○	○	
	クワクサ	○	○	○	○	○	
	ツルコウゾ	○	○	○	○	○	木
	ヒメコウゾ	○	○	○	○	○	木
	ヤマグワ	○	○	○	○		木
イラクサ科	アオミズ	○		○	○	○	
	イワガネ					○	木
	カラムシ	○	○	○	○	○	
	コアカソ	○		○			
	メヤブマオ	○	○	○	○		
	ヤブマオ	○	○	○	○		
ホルトノキ科	コバンモチ		○		○		木
ボロボロノキ科	ボロボロノキ	○	○	○	○	○	木
タデ科	アレチギンギン	○	○				外
	イシミカワ	○	○				
	イタドリ	○		○			
	イヌタデ	○	○	○	○		
	オオイヌタデ	○	○	○			
	ギンギン		○	○	○	○	
	シロバナハナサクラタデ				○		
	シンミズヒキ		○				
	スイバ			○	○	○	
	ハナタデ				○		
	ヒメツルソバ		○		○		外・逸

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栂地区 (栂公民館東側)	襟野地区	栂地区 (栂公民館東側)	栂地区 (山口橋東側)	
(タデ科)	ボントクタデ					○	
	ママコノシリヌグイ	○	○				
	ミズヒキ	○	○	○	○	○	
	ミヅソバ	○	○	○	○	○	
	ヤナギタデ			○			
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○	○	○	○		外
ザクロソウ科	ザクロソウ	○	○	○	○		
スベリヒユ科	スベリヒユ	○	○	○	○		外
	ハゼラン			○			外
ナデシコ科	ウシハコベ	○	○	○	○		外
	オランダミミナグサ			○			外
	コハコベ	○	○	○	○	○	
	スイセンノウ	○					外・逸
	ツメクサ	○	○	○	○		
	ミノフスマ			○			
	ハマナデシコ	○					
	ミドリハコベ				○		
アカザ科	アカザ	○		○			外
	ケアリタソウ	○		○			外
ヒユ科	イヌビユ	○	○	○	○		外
	イノコヅチ			○	○		
	ヒナタイノコヅチ	○		○	○		
	ホソバツルノゲイトウ			○			外
	ホナガイヌビユ				○		外
マツバサ科	サネカズラ	○	○	○	○	○	木
クスノキ科	カゴノキ		○		○		木
	クスノキ	○	○	○	○	○	木
	シロダモ	○	○	○	○	○	木
	タブノキ	○	○	○	○	○	木
	ヤブニッケイ	○	○	○	○	○	木
	ヤマコウバシ					○	木
キンボウゲ科	キツネノボタン	○	○	○			
	センニンソウ	○	○	○	○	○	
	ヒメウズ			○	○		
	ボタンヅル	○	○	○	○		木

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栲地区 (栲公民館東側)	襟野地区	栲地区 (栲公民館東側)	栲地区 (山口橋東側)	
メギ科	ナンテン	○	○	○	○	○	木
アケビ科	アケビ	○	○	○	○	○	木
	ミツバアケビ	○	○	○	○	○	木
	ムベ	○	○	○	○	○	木
ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	○	○	○	○	○	木
ドクダミ科	ドクダミ	○	○	○	○		
	ハンゲショウ		○		○		
ツバキ科	サカキ	○		○			木
	チャノキ	○	○	○	○	○	木・逸
	ヒサカキ	○	○	○	○	○	木
	ヤブツバキ	○	○	○	○	○	木
ケシ科	ムラサキケマン				○	○	
アブラナ科	イヌガラシ	○	○	○	○		
	オランダガラシ	○	○	○	○		外・逸
	カラクサナズナ			○	○		外
	ショカツサイ			○			外
	タネツケバナ			○			
	ナズナ	○	○	○	○		
	マメゲンバイナズナ	○					外
マンサク科	イスノキ	○		○			木
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	○					
ユキノシタ科	ウツギ	○	○	○	○	○	木
	コガクウツギ					○	木
トベラ科	トベラ	○		○			木
バラ科	オヘビイチゴ	○	○	○			
	カマツカ		○		○	○	木
	キンミズヒキ	○	○	○	○		
	クサイチゴ	○	○	○	○	○	木
	クマイチゴ	○	○	○	○		木
	ダイコンソウ		○			○	
	テリハノイバラ	○	○	○	○	○	木
	ナガバモミジイチゴ	○	○	○	○	○	木
	ナワシロイチゴ	○	○	○	○		木
	ノイバラ	○	○	○	○	○	木
	ビロードイチゴ	○	○	○	○	○	木

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栲地区 (栲公民館東側)	襟野地区	栲地区 (栲公民館東側)	栲地区 (山口橋東側)	
(バラ科)	ビワ		○		○		木・逸
	フユイチゴ	○	○	○	○	○	木
	ヘビイチゴ	○	○	○	○		
	ヤブヘビイチゴ	○	○	○	○		
	ヤマザクラ	○	○	○	○		木
マメ科	アレチヌスビトハギ	○	○	○	○	○	外
	イタチハギ	○		○			木・逸・外
	エビスグサ			○	○		外・逸
	カスマグサ			○	○		
	カラスノエンドウ			○	○		
	クサネム	○		○			
	クズ	○		○			
	ゲンゲ			○			外
	コマツナギ	○		○			木
	シロツメクサ	○	○	○	○		外
	ツルマメ	○	○	○		○	
	ナツフジ	○	○	○	○	○	木
	ヌスビトハギ	○		○	○		
	ネコハギ	○	○	○	○		
	ネムノキ	○	○	○	○	○	木
	ノアズキ	○	○	○			
	ノササゲ	○		○		○	
	メドハギ	○		○			
	ヤハズソウ	○	○	○			
	ヤブツルアズキ				○		
	ヤブマメ	○	○	○	○		
	ヤマハギ	○	○	○	○		木
	ヤマフジ	○	○	○	○	○	木
カタバミ科	アカカタバミ		○	○	○		
	イモカタバミ	○		○			外
	オッタチカタバミ	○	○	○	○		外
	カタバミ	○	○	○	○		
	ハナカタバミ			○			外・逸
	ムラサキカタバミ	○	○	○	○		外

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		櫛野地区	栲地区 (栲公民館東側)	櫛野地区	栲地区 (栲公民館東側)	栲地区 (山口橋東側)	
トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○	○	○	○	木
	エノキグサ	○	○	○	○	○	
	オオニシキソウ	○	○	○			外
	ユニシキソウ	○	○	○	○	○	外
	コミカンソウ	○	○	○	○		
	ショウジョウソウ		○		○		外
	ナンキンハゼ		○		○		木・逸
	ニシキソウ	○	○	○	○		
	ハイニシキソウ	○	○	○	○		外
	ブラジルコミカンソウ				○		外
ユズリハ科	ヒメユズリハ				○		木
ミカン科	カラスザンショウ		○		○	○	木
センダン科	センダン	○	○	○	○		木
ヒメハギ科	ヒメハギ	○		○			
ウルシ科	ヌルデ	○	○	○	○	○	木
	ハゼノキ	○	○	○	○		木
	ヤマハゼ	○	○	○	○		木
カエデ科	イロハカエデ	○	○	○	○	○	木
ツリフネソウ科	ホウセンカ			○			外・逸
モチノキ科	イヌツゲ	○	○	○	○	○	木
	クロガネモチ	○	○	○	○	○	木
	シイモチ		○		○		木
	ナナミノキ	○	○	○	○	○	木
ニガキ科	ニガキ	○	○	○	○		木
ニシキギ科	コマユミ	○	○	○	○	○	木
	ツルウメモドキ	○	○	○	○	○	木
	マユミ	○	○	○	○	○	木
ミツバウツギ科	ゴンズイ	○	○	○	○	○	木
フクロソウ科	アメリカフウロ			○	○		外
	ゲンノショウコ		○		○		
ブドウ科	エビヅル	○	○	○	○	○	木
	キレハノブドウ	○	○	○			木
	ツタ	○	○	○	○		木
	ノブドウ	○	○	○	○	○	木
	ヤブガラシ	○	○	○	○	○	

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栲地区 (栲公民館東側)	襟野地区	栲地区 (栲公民館東側)	栲地区 (山口橋東側)	
アオイ科	ヤノネボンテンカ	○					木・外・逸
グミ科	ナワシログミ	○	○	○	○	○	木
スマレ科	スマレ	○	○	○	○		
	タチツボスマレ		○				
	ツボスマレ				○		
	ノジスマレ				○		
ウリ科	アマチャヅル		○		○		
	カラスウリ	○	○	○	○	○	
	キカラスウリ	○		○			
	スズメウリ				○		
ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ			○			外
アカバナ科	アカバナユウゲショウ		○				外
	コマツヨイグサ	○	○				外
	チョウジタデ			○			
	ヒルザキツキミノウ	○					外
	ヒレタゴボウ				○		外
	メマツヨイグサ		○				外
ミズキ科	アオキ	○	○	○	○	○	木
	クマノミズキ		○		○	○	木
	ハナイカダ					○	木
ウコギ科	カクレミノ	○	○	○	○	○	木
	キツタ	○	○	○	○	○	木
	タラノキ	○	○	○	○	○	木
	ハリギリ		○		○	○	木
	ヤツデ	○	○	○	○	○	木
セリ科	ウマノミツバ				○		
	オオバチドメ					○	
	オヤブジラミ	○					
	セリ	○	○	○	○		
	セントウソウ				○	○	
	チドメグサ	○		○			
	ツボクサ		○				
	ノチドメ		○	○	○		
	ヒメチドメ			○			
	ミツバ	○	○			○	

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	柗地区 (柗公民館東側)	襟野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	
②合弁花類 第1回(21科89種) 第2回(21科101種) 合計(21科108種)							
ツツジ科	シヤシヤンボ	○	○	○	○	○	木
	ネジキ	○	○	○	○	○	木
	ヤマツツジ	○		○			木
ヤブコウジ科	イズセンリョウ		○		○	○	木
	マンリョウ		○		○	○	木
	ヤブコウジ		○		○	○	木
サクラソウ科	コナスビ	○	○	○	○		
カキノキ科	カキノキ		○		○	○	木
エゴノキ科	エゴノキ	○	○	○	○	○	木
ハイノキ科	クロキ	○	○	○	○	○	木
	ミミズバイ	○	○	○	○	○	木
モクセイ科	トウネズミモチ	○	○	○	○	○	木・外・逸
	ネズミモチ	○	○	○	○	○	木
キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	○		○			外・逸
	テイカカズラ	○	○	○	○	○	木
ガガイモ科	ガガイモ	○	○			○	
アカネ科	アカネ	○	○	○	○	○	
	キクムグラ					○	
	クチナシ	○	○	○	○	○	木
	ヒメヨツバムグラ	○	○	○	○		
	ヘクソカズラ	○	○	○	○	○	
	ヤエムグラ				○		
ヒルガオ科	アメリカアサガオ	○		○	○		外
	コヒルガオ	○	○	○	○		
	ヒルガオ	○	○				
	ホシアサガオ				○		外
	マルバルコウソウ		○		○		外
	リュウキュウアサガオ				○		逸
ムラサキ科	キュウリグサ	○	○	○	○		
	チシャノキ		○		○	○	木
	ハナイバナ			○			
クマツヅラ科	アレチハナガサ	○	○	○	○		外
	クサギ	○	○	○	○	○	木
	ハマクサギ		○		○		木

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		樫野地区	栂地区 (栂公民館東側)	樫野地区	栂地区 (栂公民館東側)	栂地区 (山口橋東側)	
(クマツヅラ科)	ボタンクサギ	○					木・外
	ムラサキシキブ		○		○	○	木
	ヤブムラサキ		○		○	○	木
シソ科	アキノタムラソウ	○		○			
	イヌコウジュ	○	○	○	○		
	オドリコソウ				○		
	カキドオシ	○	○	○	○	○	
	キランソウ			○			
	タツナミソウ	○					
	ツルジュウニヒトエ		○				外・逸
	トウバナ		○	○	○	○	
	ヒメジソ				○		
	ホトケノザ			○	○		
ナス科	アメリカイヌホオズキ	○	○	○	○		外
	オオイヌホオズキ			○	○		外
	クコ				○		木・外
	ヒヨドリジョウゴ	○		○			
ゴマノハグサ科	ウリクサ	○	○	○	○		
	オオイヌノフグリ		○	○	○		外
	スズメノトウガラシ			○			
	トキワハゼ	○		○	○		
	トラノオズカケ	○		○			【福岡県絶滅危惧 I A 類】
キツネノマゴ科	キツネノマゴ		○	○	○	○	
オオバコ科	オオバコ	○	○	○	○	○	
	ツボミオオバコ			○	○		外
スイカズラ科	キダチニンドウ	○	○	○	○	○	木
	コバノガマズミ	○	○	○	○		木
	スイカズラ	○	○	○	○		木
	ソクズ	○	○	○	○		
	ニワトコ	○	○	○	○		木
	ハクサンボク		○		○	○	木
キキョウ科	ヒナギキョウ	○		○			
	ホタルブクロ	○					
	ミジカクシ	○		○			
キク科	アカミタンポポ			○			外

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		樫野地区	柵地区 (柵公民館東側)	樫野地区	柵地区 (柵公民館東側)	柵地区 (山口橋東側)	
(キク科)	アキノノゲシ	○	○	○	○	○	外
	アメリカセンダングサ	○	○	○	○	○	外
	アメリカカタサブロウ	○	○	○	○	○	外
	ウラジロチチコグサ	○	○	○	○	○	外
	オオアレチノギク	○	○	○	○		外
	オオキンケイギク	○	○	○	○		【特定外来生物】
	オオジシバリ	○		○			
	オオハルシャギク		○	○	○		外・逸
	オカダイコン			○	○	○	
	オニタビラコ	○	○	○	○	○	
	オランダナナミグサ			○			外
	カッコウアザミ				○		外・逸
	ククイモ		○		○		外
	キバナコスモス	○	○	○	○		外・逸
	シマカンギク	○		○			
	シュウブソウ				○	○	
	シロバナタンポポ				○		
	セイタカアワダチソウ	○	○	○	○	○	外
	セイヨウタンポポ	○		○			外
	タカサブロウ			○	○		
	チチコグサ	○	○	○			
	チチコグサモドキ	○	○	○		○	外
	ツワブキ	○	○	○	○	○	
	トキンソウ		○	○	○		
	ノアザミ			○	○		
	ノゲシ	○	○	○	○	○	外
	ハハコグサ	○		○			
	ハルシャギク		○				外
	ヒメジョオン	○	○	○	○	○	外
	ヒメムカシヨモギ	○		○	○		外
	ヒヨドリバナ	○	○	○	○	○	
	フキ	○	○	○	○	○	
	ベニバナボロギク	○	○	○	○	○	外
	ヘラバヒメジョオン		○				外
ホソバアキノノゲシ	○		○			外	

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		榛野地区	栂地区 (栂公民館東側)	榛野地区	栂地区 (栂公民館東側)	栂地区 (山口橋東側)	
(キク科)	ヤクシソウ	○		○			
	ヤブタバコ	○	○	○	○	○	
	ヨメナ	○	○	○	○	○	
	ヨモギ	○	○	○	○	○	
②単子葉類 第1回(17科91種) 第2回(16科106種) 合計(17科121種)							
トチカガミ科	オオカナダモ	○		○			外
	ミズオオバコ			○			【環境省絶滅危惧Ⅱ類】 【福岡県絶滅危惧ⅠB類】
ユリ科	ウバユリ		○		○		
	オニユリ	○					
	サルトリイバラ	○	○	○	○	○	木
	ジャノヒゲ					○	
	ツルボ			○	○		
	ナガバジャノヒゲ	○	○	○	○		
	ナルコユリ				○		
	ノビル			○	○		
	ヤブカンゾウ	○		○			
	ヤブラン	○	○	○	○	○	
ヒガンバナ科	サフランモドキ			○			外・逸
	タマスダレ		○		○		外・逸
	ヒガンバナ			○		○	
ヤマノイモ科	オニドコロ	○	○	○	○		
	カエデドコロ	○	○	○	○	○	
	ナガイモ	○					
	ニガカシュウ	○	○	○	○	○	
	ヤマノイモ	○	○	○	○	○	
ミズアオイ科	コナギ	○		○			
アヤメ科	オオニワゼキショウ	○					外
	キシウブ			○			外
	シャガ		○		○		
	ニワゼキショウ	○	○				外
	ヒメヒオウギズイセン	○	○	○	○		外・逸
イグサ科	イ	○	○				
	クサイ	○		○			
	スズメノヤリ			○			

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		榛野地区	柵地区 (柵公民館東側)	榛野地区	柵地区 (柵公民館東側)	柵地区 (山口橋東側)	
(イグサ科)	ホソイ	○		○			
ツユクサ科	イボクサ	○		○			
	ツユクサ	○	○	○	○	○	
	ノハカタカラクサ	○	○	○	○		外・逸
	マルバツユクサ		○	○	○		外
	ヤブミョウガ	○	○	○	○	○	
イネ科	アキノエノコログサ	○	○	○	○	○	
	アキメヒシバ	○	○	○	○		
	アシボソ			○	○	○	
	アゼガヤ			○			
	アブラスキ			○			
	イタチガヤ	○		○	○		
	イヌビエ	○	○	○	○	○	
	エノコログサ	○	○	○	○	○	
	オオエノコロ	○					
	オオクサビキ				○		外
	オニウシノケグサ	○					外
	オヒシバ	○	○	○	○	○	
	カズノコグサ	○	○				
	カゼクサ	○	○	○	○	○	
	カニツリグサ	○					
	キシユスズメノヒエ	○		○			外
	キツネガヤ		○		○		
	ギョウギシバ		○	○	○		
	キンエノコロ	○	○	○	○		
	クマザサ			○			
	コスズメガヤ	○	○				外
	コツブエノコロ		○				
	コツブキンエノコロ			○	○	○	
	コヌカグサ	○		○			
	コブナグサ			○		○	
	コメヒシバ	○	○	○	○		
	ササガヤ	○	○	○	○	○	
	ササクサ	○	○	○	○		

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		榛野地区	栂地区 (栂公民館東側)	榛野地区	栂地区 (栂公民館東側)	栂地区 (山口橋東側)	
(イネ科)	シマスズメノヒエ	○	○	○	○		外
	ジュズダマ	○	○	○	○	○	外
	シナダレスズメガヤ	○		○			外
	ススキ	○	○	○	○		
	スズメノヒエ			○			
	セイバンモロコシ	○	○	○	○		外
	タイヌビエ			○			
	タチスズメノヒエ	○	○	○	○		外
	チガヤ	○	○	○	○	○	
	チカラシバ	○	○	○	○	○	
	チゴザサ	○		○			
	チヂミザサ	○	○	○	○	○	
	ツルヨシ	○	○	○	○		
	トウチク	○		○			外・木
	トキワススキ	○	○	○	○		
	ナギナタガヤ	○		○			外
	ナルコビエ	○		○			
	ニワホコリ	○	○	○	○		
	ヌカキビ				○		
	ネザサ	○	○	○	○	○	木
	ネズミノオ				○	○	
	ハチク		○		○		木
	ヒメアシボソ			○		○	
	ヒメイヌビエ	○	○	○	○		
	ヒメモロコシ	○					外
	ホソムギ	○		○			外
	マダケ	○	○	○	○	○	木
	ムラサキエノコロ			○			
	ムラサキネズミノオ				○		
	メダケ		○	○	○	○	木
	メシバ	○	○	○	○	○	
	メリケンカルカヤ			○			外
	モウソウチク	○	○	○	○	○	木
ヨシ	○	○	○	○			

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		榛野地区	柗地区 (柗公民館東側)	榛野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	
ヤシ科	シュロ	○	○	○	○		木
サトイモ科	カラスビシャク	○	○	○	○		
	セキショウ	○		○			
	ムサシアブミ					○	
ウキクサ科	ウキクサ	○					
ガマ科	ガマ	○		○			
カヤツリグサ科	アイダクグ	○	○	○	○	○	
	イヌクグ	○	○	○			
	オニガヤツリ			○			
	カヤツリグサ	○	○	○	○		
	クグガヤツリ			○	○		
	コゴメガヤツリ	○		○	○		
	シラスゲ	○	○	○	○		
	ナキリスゲ			○		○	
	ハマスゲ	○	○	○	○	○	
	ヒデリコ			○			
	ヒメクグ	○	○	○	○		
	ホタルイ	○					
	ヤワラスゲ		○		○	○	
ショウガ科	ジンジャー				○		外・逸
	ハナミョウガ		○		○		
ダンドク科	ハナカンナ	○	○	○	○		外・逸
ラン科	コ克蘭		○		○	○	
	ネジバナ	○	○				

## (備考)

木 : 「木本類」の略。木本類とは、形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。ただし、例外として竹の仲間やつる性のもので年輪が無く、形成層が無くとも木本とするものがある。⇔草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。

逸 : 「植栽逸出」の略。人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。一般的に帰化植物のうち意図的に持ち込まれたものをさす。

## (2) ほ乳類

第2回調査にて、イノシシの足跡と、イノシシによるミカンの食痕を確認した。また、コウベモグラのものと推測されるトンネル、及びテンのものと推測される糞を確認した。今回の調査結果から、合計3目3科3種を確認した。

### ほ乳類合計リスト

科名	和名	樫野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	備考
ウシ目 (1科1種)					
イノシシ科	イノシシ	○	○	○	
ネコ目 (1科1種)					
イタチ科	テン	○	○		
モグラ目 (1科1種)					
モグラ科	コウベモグラ	○	○		



イノシシの足跡



イノシシの食痕



コウベモグラのトンネル



テンの糞

## (3) 鳥類

第1回調査では、3目7科8種、第2回調査では、3目9科11種を確認した。第1回及び第2回の調査結果から、合計4目13科15種を確認した。

希少野生生物は、上内の柗（山口橋東側）地区の調査で福岡県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているヤマドリを目視確認した。

また、福岡県の保全対策依存種に指定されているカササギを目視確認した。

鳥類合計リスト

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栂地区 (栂公民館東側)	襟野地区	栂地区 (栂公民館東側)	栂地区 (山口橋東側)	
ハト目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
ハト科	キジバト	○	○	○			
スズメ目 第1回(5科6種) 第2回(7科9種) 合計(10科12種)							
ウグイス科	ウグイス	○					
カラス科	カササギ	○		○			【福岡県保全対策依存種】
	ハシブトガラス		○	○	○		
ハタオリドリ科	スズメ	○	○	○	○		
ツバメ科	ツバメ	○	○				
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○				
ホオジロ科	ホオジロ			○			
モズ科	モズ			○			
ヒバリ科	ヒバリ			○			
セキレイ科	キセキレイ					○	
	ハクセキレイ					○	
メジロ科	メジロ					○	
カッコウ目 第1回(1科1種) 第2回(なし) 合計(1科1種)							
カッコウ科	ホトギス	○					
キジ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
キジ科	ヤマドリ					○	【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】

希少野生生物リスト

和名	種類
ヤマドリ 	<b>【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】</b> 丘陵から山地のよく茂った林に生息するが、生息数は少ないものと考えられる。全長は雄125cm、雌55cm。日本固有種で、雄はほぼニワトリ大であるが、全長の半分以上になる非常に長い尾を持つ。全体に赤褐色であるが、頭から首にかけてが最も濃く見え、眼の周りには赤い皮膚が裸出している。雌はキジの雌と似るが、本種のほうが赤味のある褐色である。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)
カササギ 	<b>【福岡県保全対策依存種】</b> 国内では、北部九州域のみに生息し、分布は局地的であるが、世界的には広く分布している。県内での生息分布調査および鳥類分布調査では、平野部から山麓へと生息は増加、拡大している。しかし、近年営巣に適した大きな樹木が少なくなったこともあって、電柱に営巣する割合が急増している。分布中心地での天然記念物指定により、電柱への営巣が黙認されてきた過去の経緯が、分布拡大と関連していると考えられる。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)

(4) 爬虫類・両生類

第1回調査※では、爬虫類1目3科3種、両生類1目1科2種を確認した。第2回調査では、爬虫類1目2科4種、両生類2目2科5種を確認した。第1回及第2回の調査結果から合計爬虫類1目3科5種、両生類2目2科6種を確認した。

希少野生生物は、第2回調査において、両生類で福岡県絶滅危惧Ⅱ類に指定されているニホンアカガエルを確認した。また、環境省と福岡県の準絶滅危惧にしていされているアカハライモリを確認した。

爬虫類合計リスト

科名	和名	第1回調査※		第2回調査			備考
		襟野地区	柗地区 (柗公民館東側)	襟野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	
有鱗目 第1回(3科3種) 第2回(2科4種) 合計(3科5種)							
ナミヘビ科	アオダイショウ			○			
	シマヘビ	○				○	
	ヤマカガシ				○	○	
カナヘビ科	カナヘビ	○	○		○		
トカゲ科	ニホントカゲ		○				

※第1回調査は、合同調査ではなく独自調査



ヤマカガシ



アオダイショウの抜け殻

両生類合計リスト

科名	和名	第1回調査※		第2回調査			備考
		櫛野地区	柗地区 (柗公民館東側)	櫛野地区	柗地区 (柗公民館東側)	柗地区 (山口橋東側)	
カエル目 第1回(1科2種) 第2回(1科4種) 合計(1科5種)							
アカガエル科	ウシガエル			○			
	ツチガエル			○			
	トノサマガエル	○					
	ニホンアカガエル			○		○	【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】
	ヌマガエル	○	○	○			
有尾目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
イモリ科	アカハライモリ				○		【環境省準絶滅危惧】 【福岡県準絶滅危惧】

※第1回調査は、合同調査ではなく独自調査

希少野生生物リスト

和名	種類
ニホンアカガエル 	<b>【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】</b> 主として低地・丘陵地の林縁部に生息し、以前は比較的普通に見られるカエルであった。近年、これらの場所は宅地開発や森林の伐採が進んで生活の場が奪われ、湿地や山間部の水田域の乾燥化によって産卵適地が失われている。分布域・個体数とも大幅に減少している。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)
アカハライモリ 	<b>【環境省準絶滅危惧】【福岡県準絶滅危惧】</b> 低地、山地の池や溝に多く生息していたが、近年低地ではほとんど見かけなくなった。成体は水中で生活するが、年間を通して生活できる適当な水域が減少していることが衰退の主な原因と見られる。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)

(5) 昆虫類・クモ類

第1回調査※では、櫛野地区の調査で、昆虫類7目61科137種、クモ類1目13科30種を確認した。

第2回調査の櫛野地区の調査で、昆虫類7目21科34種、クモ類1目6科6種、上内の柗地区(柗公民館東側・山口橋東側)の調査で、昆虫類7目26科53種、クモ類1目6科7種を確認。計昆虫類7目34科67種、計クモ類1目7科8種を確認した。第1回及び第2回調査結果から、合計昆虫類7目62科154種、クモ類1目13科31種を確認した。

希少野生生物は、第1回調査の櫛野地区において、昆虫類で環境省絶滅危惧Ⅱ類に指定されているベニイトトンボ、福岡県絶滅危惧Ⅱ類に指定されているコムラサキを確認した。また、第2回調査の櫛野地区で環境省及び福岡県の準絶滅危惧に指定されているコオイムシを確認した。

希少野生生物リスト

和名	種類
ベニイトトンボ 	【環境省絶滅危惧Ⅱ類】 本州、四国、九州に分布し、平地から丘陵地の水生植物が豊富な池沼に生息しているが埋め立てや水質悪化などによって各地で減少し、生息地は局限される。九州北部には現在も多くの生息地が残されている。 (出典:環境省レッドデータブック)
コムラサキ 	【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】 1980年代に入ってから公式の記録が急減し、特に都市部では著しい。本種の生息地であるヤナギのある水辺環境が減少し、またその樹液が成虫の餌となるクヌギ、コナラ類の伐採が衰亡の主要因と考えられる。暖地では普通3回、5～9月に発生する。幼虫の食草はヤナギ科のヤナギ属、ヤマナラシ属。幼虫で越冬するが、3齢を中心に2～4齢の様々なステージで越冬する。生息地は平地～低山地の河川沿いのヤナギ類のある水辺環境。都市の公園や街路樹のシダレヤナギにも発生することがある。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)
コオイムシ  (写真出典:ウィキペディア)	【環境省準絶滅危惧】【福岡県準絶滅危惧】 かつては池沼や水田に普通であったが、水稻害虫の集団防除によって激減し、1965年以降ながら記録は途絶えていたが、2000年に糸島半島の池から採集された。体長 17～20mm。体はほぼ卵形で、扁平である。前脚は小動物の捕獲に適した形となっている。(出典:福岡県レッドデータブック 2001)

昆虫類合計リスト

No. 1

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		櫛野地区	櫛野地区	栳地区(栳公民館東側・山口橋東側)	
チョウ目 第1回(16科53種) 第2回(10科31種) 合計(16科57種)					
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	○	
	キマダラセセリ	○		○	
	クロセセリ	○		○	
	ダイモウセセリ	○			
	チャバネセセリ	○		○	
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○			
	アゲハチョウ	○		○	
	カラスアゲハ	○			
	キアゲハ	○			
	ジャコウアゲハ	○			
	ナガサキアゲハ	○		○	

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		櫛野地区	櫛野地区	栳地区(栳公民館東側・山口橋東側)	
(アゲハチョウ科)	モンキアゲハ	○		○	
シロチョウ科	キチョウ	○	○	○	
	スジグロシロチョウ	○		○	
	モンキチョウ	○	○		
	モンシロチョウ	○	○	○	
シジミチョウ科	ゴイシジミ	○			
	サツマシジミ	○			
	ツバメシジミ	○			
	ヒメウラナシジミ			○	
	ベニシジミ	○		○	
	ムラサキシジミ	○	○	○	
	ムラサキツバメ		○	○	
	ヤマトシジミ	○		○	
	ルリシジミ	○	○	○	
ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ	○	○	○	
タテハチョウ科	アカタテハ	○	○	○	
	イシガキチョウ	○		○	
	イチモンジチョウ	○			
	キタテハ	○	○	○	
	ゴマダラチョウ	○			
	コムスジ	○			
	コムラサキ	○			【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】
	タテハモドキ			○	
	ツマグロヒョウモン	○	○	○	
	ヒメアカタテハ	○	○	○	
	ルリタテハ		○		
ジャノメチョウ科	クロノマチョウ	○	○	○	
	クロヒカゲ	○		○	
	サトキマダラヒカゲ	○			
	ヒメウラナミジャノメ	○			
	ヒメジャノメ	○			
ミノガ科	シバミノガ	○	○	○	
	チャミノガ	○	○		
イラガ科	イラガ	○			
	ヒロヘリアオイラガ	○	○	○	

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		櫛野地区	櫛野地区	栴地区(栴公民館東側・山口橋東側)	
ヤガ科	オオトモエ	○			
	フクラスズメ	○	○	○	
シヤクガ科	ユウマダラエダシヤク	○			
スズメガ科	オオスカシバ	○			
	セスジスズメ	○			
	ホシホウジャク	○			
ヤママユガ科	クスサン	○			
	シンジュサン	○			
アゲハモドキガ科	アゲハモドキ	○			
ヒトリガ科	シロヒトリ	○			
カノコガ科	カノコガ	○			
トンボ目 第1回(8科20種) 第2回(6科12種) 合計(8科26種)					
ヤンマ科	カトリヤンマ		○		
	ギンヤンマ	○			
	クロスジギンヤンマ	○			
	コオニヤンマ		○		幼虫(ヤゴ)
	コシボソヤンマ		○		幼虫(ヤゴ)
	サラサヤンマ	○			
サナエトンボ科	タイワンウチワヤンマ	○			
オニヤンマ科	オニヤンマ	○			
トンボ科	ウスバキトンボ	○			
	オオシオカラトンボ	○			
	コシアキトンボ	○			
	コフキトンボ	○			
	シオカラトンボ	○		○	
	ショウジョウトンボ	○		○	
	ネキトンボ			○	
	ノシメトンボ	○			
	ハラビロトンボ	○			
	マユタテアカネ			○	
	イトトンボ科	アオモンイトトンボ	○	○	
キイトトンボ		○			
クロイトトンボ		○			
ベニイトトンボ		○			【環境省絶滅危惧Ⅱ類】
モノサシトンボ科	モノサシトンボ	○	○		

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		襟野地区	襟野地区	栂地区(栂公民館東側・山口橋東側)	
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	○		○	
カワトンボ科	アサヒナカワトンボ		○		幼虫(ヤゴ)
	ハグロトンボ	○	○		
コウチュウ目 第1回(14科27種) 第2回(5科6種) 合計(14科29種)					
コガネムシ科	カナブン	○			
	クロコガネ	○			
	コガネムシ	○			
	シラホシカナムグリ	○			
	ヒメコガネ	○			
	ビロウドコガネ	○			
	マメコガネ	○			
ゴムシダマシ科	キマワリ	○			
エンマムシ科	エンマムシ	○			
センチコガネ科	センチコガネ	○		○	
ハムシ科	クロウリハムシ	○		○	
ハンミョウ科	ハンミョウ	○			
テントウムシ科	ナナホシテントウ	○	○	○	
	ナミテントウ	○		○	
	ニジュウヤボシテントウ	○			
ホソクビゴムシ科	ミイデラゴムシ	○			
シデムシ科	オオヒラタシデムシ	○			
ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ	○			
クワガタムシ科	クワガタ			○	
	ヒラタクワガタ	○			
カミキリムシ科	キクスイカミキリ	○			
	キボシカミキリ			○	
	ゴマダラカミキリ	○			
	タケトラカミキリ	○			
	ベニカミキリ	○			
	ラミーカミキリ	○			
	ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ	○		
ガムシ科	コガムシ	○			
	ヒメガムシ	○			

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		櫛野地区	櫛野地区	栴地区(栴公民館東側・山口橋東側)	
カメムシ目 第1回(7科10種) 第2回(4科4種) 合計(8科11種)					
カメムシ科	アオクサカメムシ	○			
	クサギカメムシ	○			
ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	○			
	ホソヘリカメムシ	○		○	
マルカメムシ科	マルカメムシ	○		○	
オオヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ	○			
セミ科	ニイニイゼミ	○			
アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	○			
コオイムシ科	コオイムシ		○		【環境省準絶滅危惧】 【福岡県準絶滅危惧】
アメンボ科	アメンボ	○			
	シマアメンボ	○	○		
ハチ目 第1回(9科16種) 第2回(4科4種) 合計(9科16種)					
スズメバチ科	オオスズメバチ	○			
	キイロスズメバチ	○	○		
	コガタスズメバチ	○			
	フタモンアシナガバチ	○			
ミツバチ科	キムネクマバチ	○			
	ニホンミツバチ	○		○	
アリ科	アミアリ	○			
	クロオオアリ	○			
ムシヒキアブ科	アガリムシヒキ	○			
	シオヤアブ	○			
ヒラタアブ科	ホソヒラタアブ	○		○	
ハナアブ科	ハナアブ	○			
アシナガバエ科	マダラアシナガバエ	○			
ニクバエ科	センチニクバエ	○			
クロバエ科	オオクロバエ	○	○	○	
	キンバエ	○			

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		襟野地区	襟野地区	柗地区(柗公民館東側・山口橋東側)	
バッタ目 第1回(6科8種) 第2回(4科6種) 合計(6科11種)					
バッタ科	イボバッタ	○			
	ショウリョウバッタ	○			
	トノサマバッタ	○			
ヒシバッタ科	ヒシバッタ	○		○	
オンブバッタ科	オンブバッタ	○	○		
イナゴ科	ツチイナゴ	○	○	○	
キリギリス科	キリギリス	○			
	クツワムシ			○	
	サトクダマキモドキ			○	
	セスジツユムシ			○	
カネタタキ科	カネタタキ	○			
カマキリ目 第1回(1科3種) 第2回(1科4種) 合計(1科4種)					
カマキリ科	オオカマキリ	○	○	○	
	コカマキリ	○		○	
	ハラビロカマキリ	○	○	○	
	ヒメカマキリ			○	

※第1回調査は、合同調査ではなく独自調査



ヒメカマキリ



クツワムシ

科名	和名	第1回調査 ※	第2回調査		備考
		襟野地区	襟野地区	柗地区(柗公民館東側・山口橋東側)	
クモ目 第1回(13科30種) 第2回(7科8種) 合計(13科31種)					
ジグモ科	ジグモ	○	○	○	
ウズグモ科	ウズグモ	○			
ヒメグモ科	オオヒメグモ	○		○	
	ツリガネヒメグモ	○			
コガネグモ科	コガネグモ	○			
	ゴミグモ	○		○	
	サツマノフンダマシ	○			
	ドヨウオニグモ	○			
	ナガコガネグモ	○	○	○	
アシナガグモ科	アシナガグモ	○			
	オオシロカネグモ	○			
	ジョロウグモ		○	○	
	チュウガタシロガネグモ	○			
	ヤサガタアシナガグモ	○			
タナグモ科	コクサグモ	○	○	○	
	ヤチグモ	○			
ヒラタグモ科	ヒラタグモ	○	○	○	
キンダケグモ科	イオウイロハシリグモ	○			
	スシブトハシリグモ	○			
ササグモ科	ササグモ	○			
コモリグモ科	ウズキコモリグモ	○			
	ハラクロコモリグモ	○	○		
カニグモ科	ハナグモ	○			
	ヤミイロカニグモ	○			
	ワカバグモ	○			
ハエトリグモ科	アオオビハエトリ	○			
	アリグモ	○			
	ネコハエトリ	○			
	マミジロハエトリ	○			
フクログモ科	カバキコマチグモ	○			
	ヒメフクログモ	○			

※第1回調査は、合同調査ではなく独自調査

(6) 陸産貝類

第2回調査の栴地区（山口橋東側）の調査で有肺目オナジマイマイ科のウスカワマイマイを確認した。

陸産貝類合計リスト

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栴地区 (栴公民館東側)	襟野地区	栴地区 (栴公民館東側)	栴地区 (山口橋東側)	
有肺目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
オナジマイマイ科	ウスカワマイマイ					○	

(7) その他

第1回調査では、1目1科1種、第2回調査では、9目9科10種を確認した。

第1回及び第2回の調査結果から、9目9科10種を確認した。

科名	和名	第1回調査		第2回調査			備考
		襟野地区	栴地区 (栴公民館東側)	襟野地区	栴地区 (栴公民館東側)	栴地区 (山口橋東側)	
オオムカデ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
オオムカデ科	トビズムカデ					○	
コイ目 第1回(なし) 第2回(1科2種) 合計(1科2種)							
コイ科	カワムツ			○		○	
	タカハヤ			○			
スズキ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
ハゼ科	ドンコ			○			
節足動物門甲殻綱十脚目 第1回(1科1種) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
サワガニ科	サワガニ		○	○	○	○	
甲殻綱ヨコエビ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
ヨコエビ科	ニッポンヨコエビ			○		○	
環形動物門・貧毛綱・ナガミズ目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
フトミズ科	シーボルトミズ					○	
軟体動物門腹足綱前鰓亜綱中腹足目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
カワニナ科	カワニナ			○	○	○	
原始紐舌目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
リンゴガイ科	スクミリンゴガイ			○			
有肺目 第1回(なし) 第2回(1科1種) 合計(1科1種)							
モノアラガイ科	モノアラガイ			○			【環境省準絶滅危惧】

## 希少種及び特定外来生物リスト

和名	種類
<p>モノアラガイ</p>  <p>(写真出典:ウィキペディア)</p>	<p>【環境省準絶滅危惧】            生物多様性調査動物分布調査においては報告数の多い種類であるが、現状では多産する場所はきわめて少ない。生息環境であるため池や川の淀みの昨今の改変状況を見る限り、楽観視できない。また、近似した外来種との置換や交雑の危険も高い。(出典:環境省レッドデータブック)</p>

### 7 まとめ

今回の調査で、植物 114 科 512 種、ほ乳類 3 目 3 科 3 種、鳥類 4 目 13 科 15 種、爬虫類 1 目 3 科 5 種、両生類 2 目 2 科 6 種、昆虫類 7 目 62 科 154 種、クモ類 1 目 13 科 31 種、陸産貝類 1 目 1 科 1 種、その他で 9 目 9 科 10 種が確認された。

また、希少野生生物については、植物のミズオオバコ【環境省絶滅危惧Ⅱ類】【福岡県絶滅危惧ⅠB類】、イヌカタヒバ【環境省絶滅危惧Ⅱ類】、トラノオスズカケ【福岡県絶滅危惧ⅠA類】、鳥類のヤマドリ【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】、両生類のニホンアカガエル【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】、アカハライモリ【環境省準絶滅危惧】【福岡県準絶滅危惧】、昆虫類のベニイトトンボ【環境省絶滅危惧Ⅱ類】、コムラサキ【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】、コオイムシ【環境省準絶滅危惧】【福岡県準絶滅危惧】、その他で有肺目モノアラガイ科のモノアラガイ【環境省準絶滅危惧】が確認された。

今回の調査地域「櫟野地区」「上内・柵地区」は里地里山の景観が残っていて、現状でも自然豊かな生態系を備えている。これからも貴重な生物が生息する豊かな自然環境を保存していくことが必要である

### 大牟田市自然環境調査研究会

大牟田市における自然環境の調査、研究等を行い、専門的な見地から助言等を行う、市長の委嘱を受けた機関です。

発行日／平成24年3月

編集・発行／大牟田市環境部環境保全課

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL:0944(41)2721 FAX:0944(41)2722